

NO. 183

# 全 仏

12/47



除 夜 の 鐘 (知恩院)

昭和47年12月1日

# 衆議院総選挙

## 全仏推薦候補を決定

今月十日に施行される第三十三回衆議院議員選挙に当り、本会は左記のとおり計一二七名の立候補者に推薦状を交付し、支援することになった。即ち加盟宗派県仏団体にその推薦方を要請し、その加盟団体と密接な関係を有する仏教外護者もしくはその可能性ある者として申請のあったもので、審査の結果、適任と認め推薦を決定した。

- 北海道
  - △北海道一区▽
    - みのわ 登 48歳 自前
    - 防衛政務次官 病院長
  - △北海道四区▽
    - 竹田 徹道 54歳 無新
    - 美術サロン社長(北海タイムス社長)
- 東北
  - △青森県一区▽
    - 中村 拓道 61歳 自前
    - 防水工事会社顧問(八戸市長)
  - △茨城県一区▽
    - 橋本 登美三郎 71歳 自前
    - 党幹事長(運輸相、建設相)
  - △茨城県二区▽
    - 塚原 俊郎 62歳 自前
    - 党労働者福祉調査会長(労相)
  - △茨城県三区▽
    - 赤城 宗徳 68歳 自前
    - 日ノ親善協会会長(農相)
  - △栃木県二区▽
    - 党労働部会長(外務政務次官)
- 山形県
  - △山形県一区▽
    - 黒金 泰美 62歳 自前
    - 党県顧問(官房長官)
  - △山形県二区▽
    - 近藤 鉄雄 43歳 自前
    - 党県相談役(労相秘書官)
  - △山形県三区▽
    - 木村 武雄 70歳 自前
    - 建設相、国家公安委員長(行管厅长官)
- 群馬県
  - △群馬県三区▽
    - 森下 国雄 76歳 自前
    - 党顧問(衆院建設、外務委員長)
  - △群馬県四区▽
    - 中曾根 康弘 54歳 自前
    - 通産相(防衛厅长官、運輸相)
  - △群馬県五区▽
    - 福田 越夫 67歳 自前
    - 党県顧問(外相、蔵相)
  - △群馬県六区▽
    - 始関 伊平 65歳 自前
    - 党政審委員(衆院建設委員長)
  - △群馬県七区▽
    - 伊能 繁次郎 71歳 自前
    - 党総務(防衛厅长官)
  - △群馬県八区▽
    - 水田 三喜男 67歳 自前
    - 党顧問(蔵相、通産相)
  - △群馬県九区▽
    - 麻生 良方 48歳 自前
    - 党副書記長(党国民運動委員長)
  - △群馬県十区▽
    - 菊池 義郎 82歳 自前
    - 党都副会長(衆院懲罰委員長)
  - △群馬県十一区▽
    - 川端 文夫 67歳 自前
    - 党中執委員(都議)
  - △群馬県十二区▽
    - 越智 通雄 43歳 自前
    - 党支部顧問(大蔵省課長)
  - △群馬県十三区▽
    - 岡崎 英城 71歳 自前
    - 党総務副会長(衆院地方行政委員長)
  - △群馬県十四区▽
    - 和田 耕作 65歳 自前
    - 党政審副会長 都委員長
  - △群馬県十五区▽
    - 高橋 正則 58歳 自前
    - 党中小企業副委員長 都顧問
  - △群馬県十六区▽
    - 天野 公義 51歳 自前
    - 運輸会社社長(衆院内閣、商工委員長)
  - △群馬県十七区▽
    - 和田 春生 53歳 自前
    - 党機関紙局長(同盟副会長)
  - △群馬県十八区▽
    - 山田 久就 65歳 自前
    - 党外交部会長(駐ソ大使、外務次官)
  - △群馬県十九区▽
    - 石井 桂 74歳 自前
    - 建築研究所長(科技政務次官)
  - △群馬県二十区▽
    - 浜野 清吾 74歳 自前
    - 行管厅长官(衆院決算、法務委員長)
  - △群馬県二十一区▽
    - 鯨岡 兵輔 57歳 自前
    - 党組織副委員長(都議)
  - △群馬県二十二区▽
    - 門司 亮 74歳 自前
    - 党顧問(県議)
  - △群馬県二十三区▽
    - 藤山 愛一郎 75歳 自前
    - 党県会長(外相、日商会長)
  - △群馬県二十四区▽
    - 小比木 彦三郎 44歳 自前
    - 党労働局長(横浜市長)
  - △群馬県二十五区▽
    - 田川 誠一 54歳 自前
    - 党日中協副会長(科技、厚生政務次官)
  - △群馬県二十六区▽
    - 曾根 益 69歳 自前
    - 党顧問(党書記長、参院議員)
  - △群馬県二十七区▽
    - 河野 洋平 35歳 自前
    - △神奈川県三区▽

全 3 種郵便物認可

党文教局長、県畜産振興会長

中部

△山梨全県一区▽

小林 信一 64歳 社前

党県顧問(衆院公害委員長)

内田 常雄 65歳 自前

党税制調査会長(厚相)

△静岡県一区▽

西村 直己 67歳 自前

党経済調査会長(防衛庁長官 農相)

大石 千八 37歳 自新

無職(NHKアナウンサー)

高見 三郎 68歳 自前

党税制調査会長(文相)

△愛知県一区▽

丹羽 久章 58歳 自前

通産政務次官 飲料会社々々長(県議)

春日 一幸 62歳 自前

党委員長 民中連会長(党書記長)

△愛知県三区▽

海部 俊樹 41歳 自前

党国会対策副委員長(労働政務次官)

江崎 真澄 57歳 自前

党医療問題調査会長(防衛庁長官)

佐藤 銀樹 30歳 社前

党繊維対策委事務局長

△愛知県四区▽

中垣 国男 61歳 自前

党憲法調査副会長(法相)

中野 四郎 65歳 自前

党行政調査会長(善南市長)

太田 一夫 62歳 社元

△愛知県五区▽

上村 千一郎 60歳 自前

弁護士(大蔵政務次官)

福井 勇 69歳 自前

党県副会長(運輸、文部政務次官)

△愛知県六区▽

辻 寛一 67歳 自前

党組織活動調査会長(防衛政務次官)

塚本 三郎 45歳 自前

党副書記長(党県委員長)

△岐阜県一区▽

野田 卯一 69歳 自前

党首都圏整備委員長(建設相)

△岐阜県二区▽

金子 一平 59歳 自前

党中小企業調査副会長(衆院大蔵委員長)

△三重県一区▽

木村 俊夫 63歳 自前

党日中副会長(官房長官)

中井 ひろし 30歳 無新

無職(代議士秘書、社党県役員)

△三重県二区▽

野呂 恭一 53歳 自前

党内閣部会長(県議、防衛政務次官)

△長野県一区▽

小坂 善太郎 60歳 自前

党日中協会長(外相、労相)

△新潟県一区▽

小沢 辰男 56歳 自前

米油販売社長(衆院社労委員長)

福田 満 41歳 無新

電気材料販売会社重役

食堂社長(代議士秘書)

△新潟県三区▽

村山 達雄 57歳 自前

党財政部会長(法務、運輸政務次官)

大野 市郎 62歳 自前

党住宅委員長(衆院地行委員長)

△新潟県四区▽

大竹 太郎 67歳 自前

交通会社々々長(県議)

木島 喜兵衛 55歳 社前

党文教委事務局長(県議)

△富山県一区▽

松岡 松平 67歳 無元

弁護士(自民党情宣局長)

古川 喜一 57歳 社前

党県顧問(県議 地区労議長)

△富山県二区▽

佐野 憲治 57歳 社前

党建設部会長(党県委員長)

片岡 清一 61歳 自新

安全協会顧問(砺波市長)

△石川県一区▽

別川 ゆきお 54歳 自前

党商工局次長(県農協理事)

森 喜朗 35歳 自前

党青年対策部長(参院議員秘書)

奥田 敬和 45歳 自前

建設会社々々長(県議)

島崎 ゆずる 47歳 社新

党県副委員長(九大教授)

さたけ 弘造 56歳 無新

空港ビル社長(小松市長)

坂本 三十次 49歳 自前

党組織局長(県教育委員)

かわら 力 35歳 自新

青少年交流協合理事(代議士秘書)

稲村 佐近四郎 55歳 自前

党繊維対策委員長(通産政務次官)

守友 友範 53歳 社新

党県委員長(県議)

△福井県全県一区▽

堂 森 芳夫 69歳 社前

鉄道建設審委員(党代議士会長)

坪川 信三 63歳 自前

党公園緑地小委員長(建設相)

福田 一 70歳 自前

自治相(通産相)

植木 庚子郎 72歳 自前

蔵相(法相 大蔵主計局長)

近畿

△大阪府一区▽

菅野 和太郎 77歳 自前

関経連常任理事(通産相)

△大阪府二区▽

中山 正暉 40歳 自前

党青年部長(大阪府議)

△大阪府三区▽

阪上 安太郎 60歳 社前

党都市問題委員長(高槻市長)

原田 憲 53歳 自前

党広報委員長(運輸相)

△大阪府四区▽

古川 丈吉 68歳 自前

党総務副会長(衆院通信委員長)

昭和47年12月1日

- 党急造都市対策委員長(党府幹事長)
- △大阪府六区▽  
左藤 恵 48歳 自前
- 大谷学園長(領事)
- △京都府一区▽  
小川 半次 63歳 自前
- 党政調副会長(衆院予算委員長)
- 永末 英一 54歳 民元
- 党府顧問(参院議員)
- △京都府二区▽  
前尾 繁三郎 67歳 自前
- 党府名誉会長(法相)
- 玉置 一徳 60歳 民元
- 党府委員長(府議)
- △滋賀県全県一区▽  
上田 茂行 25歳 自新
- 建材会社社長(代議士秘書)
- 草野 一郎平 66歳 自前
- 県遺族会長(農林政務次官)
- ごとう 俊男 60歳 社前
- 党県顧問(国労名古屋地本委員長)
- △兵庫県四区▽  
松本 十郎 54歳 自前
- 党国民生活局長次長(大蔵省局長)
- △兵庫県五区▽  
佐々木 良作 57歳 民前
- 党書記長(参院議員)
- 有田 喜一 71歳 自前
- 経企庁長官(防衛庁長官)
- △奈良県全県一区▽  
吉田 之久 46歳 民前
- 党政審副会長(県議)
- 奥野 誠亮 59歳 自前
- 党総務局長(自治次官)
- 中国
- △岡山県一区▽  
丹正 いわお 54歳 民新
- 病院長(県PTA副会長)
- △広島県一区▽  
灘尾 弘吉 72歳 自前
- 党外交調査会副会長(文相)
- △鳥取県全県一区▽  
徳安 実蔵 72歳 自前
- 党道路調査会長(郵政相)
- △島根県一区▽  
桜内 義雄 60歳 自前
- 党政調会長(通産相)
- 大橋 武夫 68歳 自前
- 弁護士(運輸相 労相)
- △山口県一区▽  
安倍 晋太郎 48歳 自前
- 党国対副委員長(農林政務次官)
- △山口県二区▽  
岸 信介 76歳 自前
- 党顧問 日米協会会長(首相)
- 四国
- △香川県一区▽  
成田 知巳 60歳 社前
- 党委員長(党書記長)
- △愛媛県一区▽  
菅 太郎 68歳 自前
- 党県顧問(工機会社々々長)
- △愛媛県二区▽  
池田 のびる 39歳 自新
- 海運会社重役(県議)
- 九州
- △福岡県一区▽  
河野 正 58歳 社元
- 病院理事長(県議)
- 中島 茂喜 63歳 自前
- 県砂防協会会長(党代議士会長)
- △福岡県二区▽  
三原 朝雄 63歳 自前
- 党国対副委員長(県議)
- △福岡県三区▽  
荒木 万寿夫 71歳 自前
- 党行政調査副会長(文相)
- △福岡県四区▽  
池田 禎治 62歳 民前
- 党国対委員長(党副書記長)
- △佐賀県全県一区▽  
大坪 保雄 73歳 自前
- 弁護士(衆院法務委員)
- 山下 徳夫 53歳 自前
- 木材会社々々長(県議)
- △長崎県二区▽  
金子 岩三 65歳 自前
- 水産会社々々長(運輸政務次官)
- △熊本県一区▽  
大久保 武雄 69歳 自前
- 党政調副会長(海上保安庁長官)
- △熊本県二区▽  
園田 直 59歳 自前
- 党顧問(厚相 衆院副議長)
- 坂田 道太 56歳 自前
- 党文教制度調査会長(文相)
- △大分県一区▽  
広瀬 正雄 66歳 自前
- 党県顧問(日田市長 郵政相)

- △鹿児島県一区▽  
宇田 国米 69歳 自前
- 政治研究会理事長(衆院通信委員長)
- 床次 徳二 68歳 自前
- 党外交調査副会長(総務長官)

※以上は十一月二十四日(締切日)までに申請のあったものです。  
なお( )内はおもな元職。

昭和四十八年版  
仏教徒手帳  
申込み受付中

全仏総務局では、来年度の仏教徒必携「全仏手帳」を左記要領にて、十一月初旬に発行することになりました。お申込みは、全仏総務局(東京都台東区西浅草一ノ五ノ五)まで。

体裁 縦十二・二cm×横八・二cm  
表紙 特製合成皮革  
内容 三篇依文、四弘誓願、宗門聖日、宗派・都道府県仏・団体役員住所録、忌日早見表、各県宗教法人事務主管部局一覧その他  
定価 二五〇円、送料別実費

### 真言宗豊山派

## 鳥居敬蒼新管長

### 就任

真言宗豊山派では、平林宥高前管長の退位にもつき、第二十世管長・総本山長谷寺第七十五世化主に鳥居敬蒼大僧正を推戴、去る二十八日(火)一時、宗務所に於て就任式が行なわれた。

新管長狼下は東京都出身で自坊は集福の真性寺。宗務総長、豊島区仏教会長、保護司、民生委員、調停委員等要職を歴任されている。なお、当日は全仏より桜井事務次長が全仏会長の祝辞を携えて、祝賀に参じた。

## 関東甲信越静ブロック

### 代表者懇親会開催

十一月十日新潟県仏教会(会長十田真也師)が担当して越後湯沢「双葉」旅館を会場に開催され、遠く山梨県からも代表者が馳せ参じ相互の親睦を一層深めた。

特に、今回は懇親会と云うことで会議形式をとらない予定だったが、初参加の代表から折角多忙の中を万障やり繰りして参集したのだから回か爽のある会にして貰いたいと云う要望が出され、緊急会議に入る。麻布総長の挨拶に続き税制対

策について新聞局長より現況説明等あり、次期大会・全日本仏教徒会議開催に關する件については、去る組織専門委員会並びに機構改正起草委員会の模様が岩脇部長より報告され、全日本仏教会より東京都仏教連合会宛に次期大会の開催担当方申入れがなされている旨発表された。このことについて東仏会長栗本俊道師は来る十七日の東仏理事会に計った上で回答をするが、東京で開催が決った場合には、特に当ブロック各県仏の絶大な御協力を願いたい旨要請があった。懇親会ではお国自慢の民謡が競々と披露され、和氣藹々の中に進められ越路の夜はふけて行つた。参加者は次のとおり(敬称略)

- 東仏栗本俊道・板橋宥成・池野昌玄・郡司博道・千葉土持良栄・埼玉石塚大喜・神奈川鈴木敏範・横山敏明・栃木阿部諒・山梨井村胤心・小関祐随・新潟十田真也・白鳥智正・広川芳雄・全仏事務総局麻布照海・鱧淵正浩・新聞信雄・岩脇宏信

## 国際専門委員会報告

去る十一月十六日午後二時より事務総局会議室において国際専門委員会が開かれた。

まず麻布事務総長のあいさつ、柳国際局長より一般事務報告がなされたのち、慶野副委員長を議長として進められた。日中国交正常化後の日本と台湾の仏教

## 教化担当者会議

### 十二月七日に

昨年第一回の試みとして開催した各宗教化担当者会議は、各宗の要望のもとに今年に於ける十二月七日(木)京都・興正会館で開催する。

この会議は、各宗派が夫々特色ある教化運動を展開している今日、さらに宗派

会の交流の具体化については、まず親書を送ること、今後人事交流、仏書の交換等によって親善交流を深めることになつた。日中仏教交流については、中国の仏教の実情をよく掌握するとともに交流の出来る場をつくることに最大の努力を払うこと。日韓仏教の親善については、日韓仏教親善協会を設立し、広く一般に呼びかけるとともに仏教図書館設立にあつた。贈書運動を強力にすすめる事を確認し、中国、台湾、韓国に対する全仏の基本姿勢が明らかにされた。

なお当日は韓日仏教親善協会々長李能嘉師および永らく日本に滞在し、台湾、香港の仏教事情に通じている清度法師をゲストに迎えて有意義な討論を展開し終了した。

当日の出席委員は伊東堅純、慶野聡郎、黒田武志、佐藤良純、松涛弘道、村野宣忠、田村晃祐、奈良康明の各氏

間の連絡を密にして、一層の充実を計ると共に、全一仏教運動の進展と社会教化の拡大に資しようとするもので、当日は午前十時より日蓮宗渡部宗務総長並藤山英雄護法運動局長による「護法運動について」の発表、午後一時より真宗大谷派熊谷寛参務の「同朋運動について」の基調発表がある。そのあと、真漢文化専門委員長の「全一仏教運動について」の発表もあつて、各宗教化について研究討論する。

## チャリティショー

### 十二月十日

## 赤坂プリンスで

東京ブディストクラブ(浜田繁伸リター)では、恒例の「成道会チャリティショー」を来る十二月十日(日)五時から赤坂プリンスホテルに於て開催する。

ブディストクラブは若き仏教徒の研修団体で、社会への奉仕をかねて毎年チャリティショーの純益金を福祉施設等に献金している。

今年は、法話、コーラス、雅楽の記念式典のあと、第二部ショーで引田天功の魔術や歌、福引き、オークション、一流バンドによるダンス等、豪華なプログラムが組まれている。

会費は参千円(食事付)。問い合わせは(八四一)四九六五浜田宛。

# WF Bセイロン大会議事録

去る五月二十二日から二十六日までスリランカ共和国(旧セイロン)の首都であるコロネボ市に於て第十回世界仏教徒会議が開催されたことは七月号「全仏」で既報の通りであるが、会議の議事録がまとまりWF B本部より送られてきたのでこの誌面を借り簡単に報告します。

まず今年三月開催されるはずであったがWF B本部の都合により延びていた常任理事会が二十二日開かれた。

この常任理事会では、タイ国プーン妃殿下を議長とし、スリランカ共和国、アメリカ、タイ、マレーシア、日本の各代表団が出席し、討議がなされた。

はじめWF B副会長であったスリランカ共和国の故デボンドラ氏を偲び二分間の黙悼が捧げられたのち、同じくスリランカ共和国のアマスリヤ氏を副会長に推薦し、昨年五月十一日、香港ホテルにて行なわれた常任理事会の議事録の報告と承認がなされた。また、WF B事務局の事務報告が行なわれたのちWF B本部は、WF B本部を建設するために土地を提供し基金を設置したタイ国政府に感謝状を送ることに決定した。(WF B本部を永久的にタイ国に設置することについては一九六六年の第八回チェンマイ大会に於て満場一致で採択されている。) WF B規約改正については、左記の通り変更された。

一、スリランカ共和国(旧セイロン)に伴なう国名の修正

二、総会は、二年に一度催さなければならぬから「基本は二年に一度とするが、開催国の事情により三年に一度にしても良い」と変更された。

また、WF B新加盟団体申請のあった香港仏教協会、印度国際仏教センター、クメール共和国仏教会は、すべてWF B地区センターとして承認された。

その他各種委員会は次の通り報告され、承認された。

一、財政委員会 この会議は日本国代表団々長として参加した伊藤哲雄氏を議長として進められた。WF Bの財政事情を中心に討議された。この中で特に問題となった点はWF Bは各国地区センターの年間負担金によって活動できるのであり現在は各地区センターの支払いが遅れているので本部は仕事が出来ない状態である。支払いの悪いセンターに対してはWF B大会参加、採択についての権限を認めないことを決定した。また、バングラディシュ、ベトナム等の仏教徒の犠牲者に対してWF B本部に基金を設ける様世界仏教徒に訴えることを決めた。

二、調和統合委員会 オーストリアのフリッツ氏を議長として進められた。

非暴力の崇高なる考えが唯一の方法であり自分の宗教だけが最高であるという狭い考えを捨て、我々はお互いに仏教の諸分野を研究し、他宗教についても同様に勉強し、世界平和を促進する一員として全世界に協力を呼びかけることを強張させ、スリランカ共和国の一人からWF Bに婦人としてできる特別な役割を遂行させ発展させるためにも、世界仏教婦人会議をWF Bの中に設置することを提案し採択された。

三、WF B Y (世界仏教青年連盟) に関する委員会 マレーシアのタン・エン・コン氏を議長として開催された。

世界仏教青年問題の解決のためにも世界仏教青年会議を創立するためにあらゆる努力をしよう。また、スリランカ共和国代表団からWF B本部をセイロンに置くことを強く要望したが、WF B規約により不可能となり今までどおりタイ本部の中に置くことになった。

四、出版、宣伝、教育、文化、芸術に関する委員会 この委員会は一九六八年第八回チェンマイ大会の時にユネスコに加盟団体として加入してから発足した委員会であり、スリランカ共和国のヘワジ氏を議長として進められた。

まず二十五年間もの間、世界平和の為に積極的に奉仕をしたユネスコに感謝し、WF Bは、ユネスコを通じ他のユニセフ・WHO・FFHCなどの団体と協

力して平和を形成する社会にするために効果的に世界の人々に働きかけることを決議した。また、インド仏教会の代表団がインドに国際的仏教学研究所として総合仏教大学を建設することを要求したが、所定の申し出をなされていなかったため却下された。

五、人道擁護委員会 人道奉仕の面における活動を積極的に組織化することを、また、ベトナム戦争によって不幸を招いたベトナム難民に対して仏教徒として出来るだけ早く処置をとり、WF Bはベトナムへ使節を送ること、また、ベトナムに限らず他の国で起こる不幸に対処できるように基金をWF Bの中に設置することを決定した。

## 事務総局録事 (十一月)

- 七日 東仏栗本会長宅訪問
- 八日 局内会議
- 十日 関東甲信越静ブロック懇親会出席
- 十一日 青森県仏東会長来局
- 十六日 国際専門委員会
- 二十二日 宗教法人事務指導者研究協議会出席(岩脇)
- 二十四日 局内会議
- 二十八日 豊山派管長就任式出席(桜井)

昭和四十七年十一月一日発行

発行人 麻布照海

編集人 岩脇宏信

発行所 財団法人

全日本仏教会